

事例紹介

【東京国際空港(羽田空港)航空機火災対応②】

令和7年10月
東京消防庁

1 災害概要

- 1 発生日時
令和6年1月2日(火) 17時47分頃
- 2 発生場所
大田区羽田空港三丁目3番 羽田空港C滑走路
- 3 概要
着陸しようとした日本航空(JAL)と海上保安庁の航空機が衝突し、双方の機体が炎上したもの
- 4 被害状況
航空機2機 全焼
死者5名(海上保安庁機)及び傷者16名(海上保安庁機1名、日本航空機15名)が発生し、5名を救急搬送
- 5 出場隊
115隊

ポンプ車	30隊
化学車	10隊
大型化学車	4隊
救急車	19隊
特殊救急車	1隊
特別救助車	7隊
その他指揮隊車、後方支援車 等	

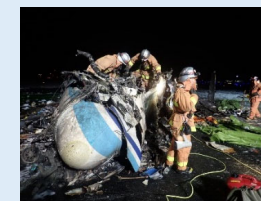
2 活動概要



名称:東京国際空港
面積:1,516ha
年間着陸回数:24.0万回(日平均 658回)

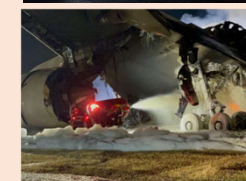
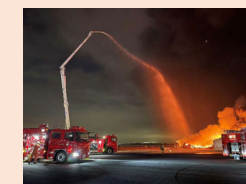
令和6年空港管理状況調査

①海上保安庁機現場の活動

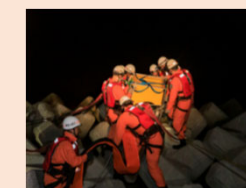


要救助者の検索活動

②日本航空機現場の活動



屈折放水塔車等による消火活動



スーパーポンパーによる送水(海水)

③避難者対応



スーパーアンビュランスによる救護所設置状況

3 課題と対策

【課題1】消防戦術について

- ・航空機の材質、燃料、空港の特殊性を踏まえた活動
- ・消火用水の確保

【課題2】部隊運用について

- ・大量放水を継続するための体制
- ・充水活動や安全管理等の消防部隊の増強

【課題3】装備資器材について

- ・無線機不感地帯
- ・積載危険物品への対応
- ・効果的な消防装備

【課題4】関係機関との連携及び教育訓練について

- ・実災害を意識した訓練

航空機火災消火救難訓練等を通じ、消防活動体制を強化

令和6年航空機火災消火救難総合訓練

